



学生が自ら選定した課題や地域などから提案されたテーマに基づき実施する社会貢献活動を支援することにより、学生の豊かな人間性を育み、さらに自主性や問題解決能力を養成することを目的として、プロジェクトを実施するグループに対し補助金を交付します。

## ▶2025年度採択事業（教員の所属・職名、学生の所属・学年は2025年度時点）

### 01 食を通じた国際理解 ★2024-2025年度採択事業

#### 【目的】

イベントを通じて世界各国の料理を食べながらその国の文化などを学び、理解を深めてもらう。  
また、公民館などの地域の団体と連携を取りながら活動を計画、運営することで、より地域に根差した、持続的な場を提供していく。  
前年度の反省を活かし、ワークシートの作成や中学生も対象とした企画を行い、幅広い世代に国際交流の場を提供する。

代表者：国際学部3年 伊藤 綾乃

構成員：4名

アドバイザー：地域共創センター 特任准教授 平尾 順平



### 02 広島100

#### 【目的】

オランダの「ロッテルダム100」や韓国の「光州100」に着想を得た、都市再生・まちづくりプロジェクト。  
広島市立大学の学生や空間、デザイン、都市再生、建築、まちづくりに関心を持つ市民が参加し、地域のさまざまな場所や小さな空間を観察することで、普段見過ごされがちな日常の風景に新たな視点を提供する。

代表者：芸術研究科博士前期2年 ジョン・テヨン

構成員：6名

アドバイザー：芸術学部 教授 吉田 幸弘  
芸術学部 准教授 藤江 竜太郎



### 03 呉市の廃校でファッションショー

#### 【目的】

呉市の廃校で「子どもと大人をつなぐ」をテーマにした町おこしイベントを企画・開催し地域のコミュニティを活性化させる。ファッションショーとフリーマーケットを軸に、世代間交流が自然に生まれるような企画・空間づくりを行う。  
参加者の反応や運営の記録を蓄積し、参考資料や同様のイベントの実施モデルとなることを目指す。これにより他地域での廃校活用のハードルを下げ、地域資源の再発見と継続的な利活用を促進する。

代表者：芸術学部3年 橋本 みなみ

構成員：5名

アドバイザー：芸術学部 教授 吉田 幸弘



04

ふうどの庭（風土×food）

【目的】

日本の農業は、後継者不足や収益性の低さなどによる離農がますます深刻になっている。また、伝統的な食文化の消失や食育の欠如など消費者側の問題もある。その結果、自給率が低いにも関わらず、多量の食品ロスを生じるという悲しい状況となっている。自ら農と食の繋がりを体験し、その過程を学生に公開し、地域に話題を提供するなどにより、学内外に持続可能な農業と食文化への理解を深める。

代表者：国際学部4年 小倉 楓花

構成員：3名

アドバイザー：芸術学部 講師 長坂 有希



05

視覚障害者に対する理解を深めるための資料の作成

【目的】

「白い杖SOSシグナルを広める会広島」では、視覚障害者への理解を求めため、講演活動を行っているが、視力に障害があるため、パワーポイントスライドなどの視覚資料の作成に苦慮されている。このため、私たちが団体の方からお話を聞いて、視覚資料を制作することにより活動を支援する。子どもから大人まで多くの人に分かりやすい表現にすることを心掛け、視覚障害者への理解を深めたい。

代表者：国際学部1年 中間 希々花

構成員：3名

アドバイザー：地域共創センター 特任准教授 平尾 順平



06

被爆80年、再生紙おりづるで次世代へバトンを繋ぐ

【目的】

被爆80年という節目を迎える今、これからの時代を担う若者たちが何も感じることなく日々を過ごしてしまうことに、広島市の学生として強い危機感を覚えた。

自分たちと同世代の高校生と折り鶴を折りながら、折り鶴が再生紙へと生まれ変わるプロセスや意味を共有するプロジェクトを企画。平和への想いを折り鶴とともに壁画というかたちで未来に残していく。

代表者：芸術学部1年 雪貞 歩花

構成員：3名

アドバイザー：地域共創センター 特任准教授 平尾 順平



## 07 バリ島（マス村）との交流を通じた まちづくり・地域おこし

### 【目的】

バリ島マス村と友好提携を結んでいる島根県美郷町では、バリのアートを軸にしたまちづくりを進めている。次のような活動で行政課題の解決や本学の地域貢献の一助としたい。

- ・美郷町＝「バリの町」という認識を広め、町の活性化に繋げる。
- ・町のシンボルとなるような作品を制作する。
- ・ワークショップや作品展示を通して来場者に楽しんでもらう。
- ・バリ島の文化のように次世代にも愛される美郷町にする。

代表者：芸術学部1年 伊藤 由衣

構成員：5名

アドバイザー：芸術学部 准教授 古堅 太郎



## 08 彩街（いろまち）プロジェクト ～地域を彩る 魅力的な街づくり～

### 【目的】

- ・高齢者や子どもたちに対して、アートがもたらす感情的・精神的な癒しや安らぎ、前向きな気持ちの促進を図る。
- ・壁画制作や完成後の場を通じて、高齢者、不登校の子どもたち、学生、地域の人々が自然に関わる機会をつくる。
- ・壁画をきっかけに、介護施設「あかしあ大河」が地域の交流拠点となり、安心して集い、心を通わせられる空間を形成する。

代表者：芸術学部1年 佐藤 蓮華

構成員：17名

アドバイザー：芸術学部 教授 志水 児王



## 09 面で伝える里神楽の歴史と魅力

### 【目的】

昔から使われてきた神楽面を復元することで、広島神楽の歴史を知ってもらい、広島神楽の発展と継承に繋げる。

里神楽の起源や特徴、昔使われていた面（おもて）の形や意味の研究や、神楽団への訪問等による調査を行う。

大学祭で調査結果の発表・展示・神楽上演を行い、伝統文化の魅力を広く伝えることを目指す。

代表者：芸術学部3年 濱本 拓海

構成員：6名

アドバイザー：芸術学部 准教授 青木 伸介



## 地域共創活動報告会（2026年3月5日（木）開催）

2024年度まで「いちだい地域共創プロジェクト・市大生チャレンジ事業合同活動報告会」という名称だった本イベントは、いちだい地域共創プロジェクトと市大生チャレンジ事業だけでなく、地域展開型芸術プロジェクトや受託研究等の地域連携事例も紹介するため、2025年度から、名称を「地域共創活動報告会」に変更しました。

2025年度地域共創活動報告会は、対面とオンラインのハイブリッドで開催しました。  
対面77人、オンライン117人、あわせて194名が参加しました。



▶2025年度地域共創活動報告会の様子は[全学公式サイト](#)からご覧ください。

